

会 議 名	第3回港区子育てひろば（あっぴい麻布）運営事業候補者選考委員会
開 催 日 時	令和5年8月30日（水曜日） 午後1時10分から午前3時15分まで
開 催 場 所	麻布区民協働スペース
委 員	（出席者）岡田委員長、安梅委員、請川委員、冨田委員、石原委員 （欠席者）なし
事 務 局	麻布地区総合支所管理課長 佐々木貴浩 施設運営担当係長 駒井 折尾 宇野
会 議 次 第	1 開会 2 議題審議 議題1 第二次審査について 議題2 運営事業候補者の決定について 3 閉会
配 付 資 料	資料1 第二次審査（プレゼンテーション・ヒアリング）方法について 資料2 第二次審査（プレゼンテーション・ヒアリング）採点表 資料3 第一次審査・第二次審査採点集計表（※採点終了後、机上配布） 資料4 第2回港区子育てひろば（あっぴい麻布）運営事業候補者選考委員会会議録 事業者A プレゼンテーション資料 事業者D プレゼンテーション資料 参考資料 第一次審査（書類審査）集計表
会議の結果及び主要な発言	
事務局	1 開会 （事務局より本日のスケジュールについて説明）
事務局	2 議題審議 議題1 第二次審査について （事業者Aによるプレゼンテーション実施）
委員長	それでは、ヒアリングに入ります。
A委員	施設長候補者にお伺いします。麻布地区の地域特性を踏まえて、どのようなところに力を入れて運営をしていきますか。
事業者A	麻布地区の地域特性として、昔から麻布地区に住んでいる方だけでなく、新しく転入してきた方も多くいることが考えられることから、多様な人たちが交流できる場にしていきたいです。特に転入してきた方には、不安な気持ちに寄り添い、相談に応じていきたいです。
A委員	昔から住んでいる方と、新しく転入してきた方の交流の場にしたいということですが、具体的に施設ではどのような取組を行いますか。

事業者A	麻布十番商店街振興組合や地域の民生児童委員の方に施設に来ていただくことを通じて、地域の方と新しく転入してきた方との交流の場を作っていきたいです。
A委員	あっぱい麻布をたくさんの方に利用していただくために、どのような取組を行いますか。
事業者A	<p>まずはあっぱい麻布の場所を認識してもらうために、麻布図書館と連携し、図書館であっぱい麻布のイベント案内を掲示してもらったり、逆にあっぱい麻布で図書館の情報を周知したりしていくことを考えています。</p> <p>また、一度利用していただいた方から、口コミで良い情報を広げて貰えるように、日々一人ひとりの利用者の方々を大切にしていきたいと考えています。</p>
B委員	プレゼンテーション資料の運営基本事項に運営のポイントが記載されていますが、子育てひろばと一時預かりで内容が違う理由を教えてください。
事業者A	<p>子育てひろばは親子で遊ぶ場所で、一時預かりは子どもを預ける場所です。利用者は、子育てひろばと一時預かりは別物という意識がとても強いと思われるため、運営のポイントは別に考えました。</p> <p>また、子育てひろばは、親子の関わりだけでなく、利用者同士でコミュニケーションをとって繋がりを深めることも大切なポイントだと考えています。</p>
B委員	どちらのポイントも、子育てひろばと一時預かり両方でやってほしい内容だと感じました。主語がないので分かりにくいですが、「身近な存在になります」とは保護者に対して、ということでしょうか。
事業者A	子育てひろばの全ての利用者に対して、という意味で記載しています。あっぱい麻布には、子育てひろばと一時預かりの2つの機能があるため、職員の関わり方や利用者のニーズもそれぞれ異なると考えています。そのため、あえて運営のポイントを分けて記載しました。
B委員	少し論理が分かりにくい部分があるので、詳しく教えてください。一時預かりに記載のある「見える化」は子育てひろばでも重要なポイントだと思いますし、「5つの輪」は一時預かりでも重要なポイントだと思います。
事業者A	子育てひろばは、保護者が子どもと過ごす場所なので、保育士の関わりは一時預かりよりも少ないと考えています。一時預かりの「見える化」というのは、保護者が見えないところで大切な子どもを預かっているという意味で、見えない部分をしっかり見える化して、伝えていくことが安心に繋がると考えているため、運営ポイントとして記載しました。
B委員	一時預かりの基本事項に、「保護者ニーズに可能な限り応えた対応を行

	います。」とありますが、可能な限りとはどの程度までの対応を考えていますか。
事業者 A	例えば、ミルクの時間や午睡の時間などは、出来る限り保護者の希望に沿って対応します。しかし、食事の時間などは、アレルギー児の対応を考えると、決まった時間に提供する必要があるため、保護者の要望に沿えない場合があります。そのため、「可能な限り」という表現をしています。
B 委員	マニュアル等で対応できる範囲が規定されているのでしょうか。
事業者 A	食事の時間については、マニュアルに記載されています。また、保護者にも利用前に提示します。 それ以外の保護者の希望については、経験に基づくものになってしまうことが多いですが、集団生活と個人を大切にすることの兼ね合いを考えて、対応を決めています。 保護者の希望はしっかり受け止めて、安全を一番に考えたときに、保育園とは違うあっぱいという特殊な運営形態の中で、出来ることと出来ないことを明確にし、対応していきます。
C 委員	保育の質の確保について、お伺いします。先ほど、自己研鑽の話がありましたが、特徴的な研修等がありましたら教えてください。
事業者 A	保育園や学童クラブなど子育て支援施設を運営する中で、子どもへの対応や安全対策、個人情報の管理などハード面の研修だけでなく、施設の実態に応じた研修の必要性を非常に感じています。 未就学の子どもを預かるという点で、保育園と一時預かりを同じように捉えている人もいますが、一時預かりは一期一会の関係であり、利用時間もそれぞれです。子どもを見ながらお迎えや受入れの対応をするといった臨機応変な対応が求められることもありますので、施設の実態に応じた施設内研修が特に重要だと考えています。 月に一度の職員会議の中で、職員間で課題や確認したいことを出し合い、研修を行っています。
C 委員	具体的に、職員会議の中でどのようなことが課題として上がってきて、研修を実施したのか、事例があれば教えてください。
事業者 A	具体的には、異年齢保育の中で、それぞれの年齢の子どもたちが安全に満足して過ごすことができる遊びや働きかけの工夫について、職員が持ち寄って研修を行いました。
C 委員	利用者支援として「子どもを虐待から守ります」と記載がありますが、日頃保育をするときに、子どもに対してどのような視点で保育をしていますか。また、子どもの様子に気になるところを発見した場合に、子ども家庭支援センターや児童相談所などの関係機関に繋ぐフローを教えてください。
事業者 A	おむつ替えや衣類の着脱の時は、子どもの身体の様子を丁寧に見ていま

	<p>す。また、食事や普段の遊びの中で、構えるような様子など気になることがないか、常に気にしながら保育をしています。</p> <p>もし、虐待の可能性のある状況を発見した場合は、施設長又は主任がすぐに報告を受け、職員から状況の聞き取りを行い、子ども家庭支援センター等へ連絡をするという流れになっています。</p>
D委員	<p>父親の育児参加や外国籍の家庭への支援、子育てサークルへの支援の取組で、具体的な提案があれば、教えてください。</p>
事業者A	<p>父親の育児参加は、例えば、土曜日や日曜日に、父親が興味を持ちやすい救命救急講習や写真撮影、工作などを実施することを考えています。</p> <p>外国籍の家庭への支援は、施設内に日本語と併記して英語でも案内を掲示し、施設のことを理解していただけるように努めていきます。港区配備のポケットブックも活用しつつ、できるだけ全職員が英語でコミュニケーションがとれるように努めていきます。</p> <p>子育てサークルへの支援は、子育てひろばに集まった親子間で情報共有をする場を設けることや、月齢やテーマごとに行事を実施し、そこで保護者の輪を作りたいと考えています。</p> <p>また、子育てひろばに港区のいろいろな情報を掲示することで、利用者が求めていることに対して、情報を紹介し、繋ぐ役割をしたいと考えています。</p>
D委員	<p>本社のバックアップ体制についてお伺いします。子育て支援の難しさや苦勞を分かっている本社職員が施設をバックアップすると、運営提案書に記載がありましたが、具体的な事例がありましたら、教えてください。</p>
事業者A	<p>私自身も学童クラブで勤務していた経験があるので、命を預かる責任の重さを抱え、目を離せない環境で職員は働いていることをよく理解しています。そのため、本社から連絡事項は、急ぎでない場合はコアタイムを避けるといった配慮をしたり、定期的なメンタルケア面談を実施しています。本社としては、施設の職員が過酷な環境の中で働いていることに感謝し、職員がいるから会社が成り立っているという考えで、日々サポートをしています。</p>
D委員	<p>人材育成の面で特に力を入れていることはありますか。</p>
事業者A	<p>コロナ禍のような特殊な社会情勢を経て、職員一人ひとりの人間性に着目する必要があると感じています。福祉の仕事は、世のため人のためという気持ちで仕事に取り組まないと、困難な状況を乗り越えていきません。そのため、ハード面だけでなく、働いていてよかったとやりがいを感じられるようなマインドになれる研修を考えているところです。</p>
E委員	<p>施設には常勤職員と非常勤職員がいると思いますが、指示の徹底やコミュニケーションをとるために気を付けていることがあれば教えてください。</p>
事業者A	<p>非常勤職員は、勤務日数が少ないので、連絡が漏れてしまうことが懸念</p>

	<p>されます。それを防ぐために、日々の申し送り事項を共有するノートを作成し、子どもの様子や保育環境を変更した点などを記載しています。必ず業務開始前に目を通してもらうように徹底しています。</p>
E委員	<p>安全対策、危機管理についてお伺いします。麻布地区の地域特性を考えたときに、一番に考えないといけない安全対策は何だと考えていますか。</p>
事業者A	<p>麻布地区は低い土地なので、水害に対する危機意識は常に持って運営していきます。</p>
委員長	<p>それでは、時間となりましたので、プレゼンテーション及びヒアリングを終了いたします。 (事業者A退席)</p> <p>(事業者Dによるプレゼンテーション実施)</p>
委員長	<p>それでは、これからヒアリングに入ります。</p>
A委員	<p>あっぴい麻布は、保育園とは役割が違う施設ですが、あっぴい麻布の施設長になった場合、どのようなところに配慮して運営していきますか。</p>
事業者D	<p>現施設では、0歳児から5歳児のクラスの他に一時保育も受け付けています。その中で、保護者支援が不足していると日々感じています。先日は保護者会を開催し、保育園での課題や、保護者が普段思っているもなかなか話しづらいことをテーマに話をしました。しかし、開催時間を夕方や土曜日に設定するのが難しく、働いている保護者の悩みについて、ゆっくりと話し合う時間がないと感じました。子育てひろばでは、もう少し保護者に寄り添える支援を自分なりに考えていきたいと思っています。また、子育てひろばでは、クッキング保育など、家では出来ないけれど子育てひろばでは出来ることを体験してもらいたいと思っています。家でも真似ができて、子どもと一緒にできる方法を提案することで、保護者の方が楽しく子育てできるように支援していきたいと考えています。</p>
A委員	<p>あっぴい麻布は、一時預かりと子育てひろばなので、保育園よりも保護者の支援や関係づくりが難しいと思います。今まで以上にどのようなことに力を入れて運営していきますか。</p>
事業者D	<p>あっぴい麻布の一時預かりは、保育園の形態とは違いますが、最長5時間という枠の中で、子どもたちといかに集中して遊びこめるか、時間を有効活用して関係性を築いていけるかということが面白いと感じています。</p> <p>また、現施設では、玄関で保護者と子どもたちを出迎えることを楽しみとしています。泣いている子どもたちが、言葉をかけたりすることで、うまく気持ちを切り替えることができると嬉しい気持ちになります。</p>
A委員	<p>利用率向上の取組について、妊娠期からの継続フォローを提案されているのが素晴らしいと感じました。情報提供以外に具体的にどのようなこ</p>

事業者D	<p>とをされる予定ですか。</p> <p>港区にはいろいろな関係施設がありますが、利用者のニーズに対して、「～に行きなさいよ」とだけ言うのではなく、一緒に考えて、アドバイスをして、ネットワークに繋げていくことを大事にしようと考えています。</p> <p>また、妊産婦は、周りの友人に妊産婦がいないと孤独になりがちで、新しい情報を得られない可能性があります。例えば、近隣の産婦人科や小児科、歯医者などにパンフレットを置かせてもらい、妊娠期も来ることが出来るということを伝えていきたいと思います。麻布図書館でもプレママやプレパパ向けのイベントを実施していると聞いているので、そのようなイベントの日に合わせて、あっぴい麻布の妊産婦向けイベントを実施することも考えています。そして、産後にリフレッシュしたい時がきたら、ぜひあっぴい麻布の一時預かりを使っていただけるように、産前から案内をしていくことを考えています。</p> <p>子育てひろばで、妊娠期から相談に乗る機会を持ち、一時預かりも事前にはしっかり見学していただくことで、産前から良い関係性を持つことが出来ると期待しています。</p>
B委員	<p>施設長候補者は「保育のアイデア多数」と記載がありますが、どのようなアイデアをお持ちですか。</p>
事業者D	<p>例えば、現施設では里芋の栽培をしています。里芋をカップで水に浸して置いたところ、1か月弱で芽や葉が出始めました。それに対して子どもたちが「妖精が住んでいるみたいな葉っぱだね」と言っていました。葉っぱが伸びたので土に植え替えた時には、雨が降って葉っぱに雫が付いているところを見て、「真珠みたい」と言っていました。栽培を通じて、子どもたちに想像力が膨らんでいくのを感じます。</p> <p>また、あっぴい麻布では、子どもたちの作った作品を施設内で飾りたいと思っています。保護者は子どもたちが誰かに手伝ってもらったのではなく、子どもだけで作ったものを見たいと思うので、そのまま飾りたいと思います。</p>
C委員	<p>保育の質の確保のために、職員の定着が重要だと思いますが、工夫していることや独自の取組はありますか。</p>
事業者D	<p>職員定着の取組として、チューター制度があります。新卒職員や経験の少ない中途採用職員に相談役の職員を配置しています。チューターは同じ施設の職員で、なるべく職員の個性にあった人を選出し、コミュニケーションが取りやすいように配慮しています。</p> <p>現施設では、調理職員にあえて保育士をチューターとして付けています。業種を超えてコミュニケーションを取り、職員同士が支え合うことで、職員の定着にも繋がっていると思います。</p> <p>その他、年次に応じた研修もあり、1年目から2年目の職員は、人権や安全、アレルギーなど基本的な研修を受けます。その後、主任や園長クラスになると、マネジメントに関する研修を受けます。</p> <p>また、先ほど話した、チューター向けの座談会も設けています。決められた研修だけではなく、職員自ら、必要な情報を取りに行けるように研</p>

	修等を計画しています。
C委員	子どもの虐待を未然に防ぐために、日頃保育をするときに、どのような視点で保育をしていますか。また、子どもの様子に気になるところを発見した場合に、子ども家庭支援センターや児童相談所などの関係機関に繋ぐフローを教えてください。
事業者D	気になる案件があった場合は、必ず子ども家庭支援センターに相談し、指導を仰ぎます。そして、必要に応じて、保護者へ声かけ等を行い、支援に繋げていきます。 また、不適切保育を防ぐための対応としては、食事の時間など職員が忙しくてイライラしてしまいがちな時間帯に助けに行くようにしています。少しでも気になる言動があった場合は、その場で職員に声をかけます。職員研修では、職員同士庇い合っただけで見過ごすのではなく、言ってあげることが職員と子どもを守ることに繋がるということをいつも話しています。
D委員	地域資源を活かした活動ということで、麻布図書館や近隣施設、医療機関、商店街等との交流について説明がありましたが、具体的にどのような連携を考えているのか教えてください。
事業者D	図書館を中心に、近隣施設とどう繋がっていけるかを模索するのが楽しみです。まずは、地域にどのような行事があるかを調べて、職員が参加をしたり、地域の方に、施設に来ていただきたいと思っています。結果として、防災にも繋がることだと思うので、災害時に協力し合える関係性を築いていきたいと考えています。
D委員	麻布地区の地域特性で感じていることがあれば教えてください。
事業者D	多くの大使館がある国際色豊かな地域だと感じています。また、あっぱい麻布は図書館併設なので、常に利用者が行き来する施設であることを活かして、交流を広げていこうと考えています。 施設にお祭りで作ったかかしの展示物があったのですが、ぜひ作ってみたいと思いました。
D委員	本部のバックアップ体制についてお伺いします。提案の中で、地域ゆかりの職員を採用することや、危機管理として内部監査室の話がありました。この2点について、具体的に教えてください。
事業者D	港区の宿舍借り上げ支援事業を活用して区内に住んでいる職員を積極的に集めていきたいと考えています。 内部監査室では、午睡チェックがルール通りに行われているかどうか、調理員の検便が適切に行われているかどうか、散歩チェックができているかどうか、小口現金の管理が適切かどうか、セキュリティ対策が適切かどうか等、多岐にわたる視点で監査が行われています。
E委員	一時預かりについて、「異年齢の中で「育ちあい」のできる環境をつくります」と記載がありますが、一時預かりにおいて、異年齢保育をうま

	く進めていくために配慮していく点を教えてください。
事業者D	初めて利用する方も、利用経験のある方もいる状況になりますが、短い時間の中で、保育士が仲立ちすることで、子どもたちにお互いを思いやる気持ちを伝え、小さい子が大きい子を見て学ぶ機会を作り上げていきたいと思っています。
委員長	それでは時間となりましたので、事業者によるプレゼンテーション及びヒアリングを終了いたします。
事務局	議題2 運営事業候補者の決定について 第二次審査結果の説明 事業者Aは、1,525点満点中1,097点で、加点項目分を除く得率は72.5%という結果です。 事業者Dは、1,525点満点中1,158点で、加点項目分を除く得点率は76.5%という結果です。
委員長	それでは、この点数を受けまして、各委員の皆様からご講評をお願いし、内容を審議いたします。
A委員	私は、事業者Aを高く評価しました。 事業者Aは、施設特性や地域特性をよく理解し、施設長候補者は、一時預かりと子育てひろばそれぞれの関わり方を、しっかり答えられていました。 事業者Dは、施設長候補者は保育園経験が豊富なようですが、保護者支援がこれまでも難しいと感じていたという話をしていました。あっぱい麻布では保護者支援が重要となってくるため、今後どうしていくか質問しましたが、明確な回答がなかったため、不安に感じました。
B委員	私は、事業者Dを高く評価しました。 事業者Aは、施設の現状を理解し、現状維持で運営を進めていく印象を受けました。 事業者Dは、施設を今後より良くしていこうという熱意が感じられました。特に、施設長候補者は、今までのキャリアを活かして、あっぱい麻布に合う保育を、とても楽しみながら工夫して考えている印象を受けました。そのような資質は、きっと良い施設運営に繋がると思いました。また、本部のバックアップ体制についても、リスク回避の取組や利用率向上の取組など工夫されている点を感じ、高く評価しました。
C委員	私は、事業者Dを高く評価しました。 事業者Aは、円滑な運営は可能だと思いますが、選考全体を通じて、やや具体性に欠ける印象を受けました。また、より良いあっぱい麻布の運営という観点から、今後の発展性を考えると、やや期待ができませんと感じました。 事業者Dは、全ての項目において具体性がありました。あっぱいのような施設の運営経験は少ないかもしれませんが、これまでの経験から、運営に対する姿勢や考え方をしっかり示されていて、非常に熱意が感じられました。施設長候補者が、「つくる」をコンセプトに運営をしていき

	たいと熱意を持って話をしていましたが、まさに新しいあっぱい麻布を作っていくという部分で大いに期待が出来ると思い、高く評価しました。
D委員	私は、僅差になりましたが、事業者Aを高く評価しました 事業者Aは、あっぱい麻布の業務をよく理解し、麻布十番商店街など地域との連携についてもしっかり考えられていた点が評価できました。 事業者Dは、経験豊富で、内部監査室など、施設の安全な運営をサポートする体制も十分でしたが、あっぱい麻布の施設特性を踏まえた運営という視点で考えると、事業者Aの方が優れていると感じました。
E委員	私は、事業者Dを高く評価しました。 施設運営の姿勢・考え方については、事業者Aは、一時預かりと子育てひろばの運営基本事項に関する質問に対する回答が少し曖昧だった点が、減点のポイントとなりました。 事業提案の実現性と安全対策・危機管理については、2事業者ともしっかりしている印象を受けました。 総合評価については、2事業者とも同点ですが、事業者Aは、やや将来への展望が不明確な印象を受け、事業者Dは、今後の運営に対して向上的な姿勢を感じました。 施設長候補者については、事業者Aは、コメントは的確で管理能力もあると感じましたが、事業者Dはそれ以上に能力が優れていると感じ、高く評価しました。
委員長	各委員からの意見を受けて、点数の変更はございますか。 なければ、事務局から改めて点数の発表をお願い致します。
事務局	それでは、第一次審査・第二次審査合計点数を発表します。 事業者A 合計点数 1,097点 得点率72.5% (加点項目分除く) 事業者D 合計点数 1,158点 得点率76.5% (加点項目分除く)
委員長	よって、港区子育てひろば(あっぱい麻布)運営事業候補者は事業者Dでよろしいでしょうか。
全委員	了承
委員長	それでは、当委員会として、港区子育てひろば(あっぱい麻布)運営事業候補者は、事業者Dに決定いたします。 事務局は、決定した運営事業候補者を発表してください。
事務局	港区子育てひろば(あっぱい麻布)運営事業候補者として決定した事業者Dは、株式会社日本保育サービスでございます。
	3 閉会